

日本語教育タイムズ

2008
FEB.
No.11

<http://www.alc.co.jp/jpn/>

学会

第一回 国際表現言語学会 開催 言語教育における演劇・ドラマの可能性を探る

二〇〇六年二月にカナダのビクトリア

ア大学で開催された国際表現言語会議

(Performing Language : International

Conference on Drama and Theatre in

Second Language)の成功によって、

国際表現言語学会設立への道が開かれ

た。あえて、「表現言語」(Performing

Language)という名称にしたのは、演

劇・ドラマだけでなく、言語が持つ多

様な表現性に関心を持つ方々にもアピ

ールしたい、という学会発起人たちの

願いが反映されている。

二〇〇七年一月一〇日(土)、一一日

(日)の両日、早稲田大学で開催された第

一回大会には、その願いが反映され、

日本だけでなく、韓国、アメリカ、カ

ナダ、台湾から、さまざまな分野で活

躍される方々二〇人余りの参加があ

った。英語教育、日本語教育従事者は

もちろん、ボイストレーニングの世界

やスポーツ界で活躍される方など、主

催者側の予想を上回る多様な「表現言

語」に携わる方々から、学問的な研究

発表をはじめ実践的なワークショップ

など、いろいろな形で発表があった。

一日目には劇作家、演出家であり、

また劇団「青年団」の主宰者である平

田オリザ氏の基調講演があり、現代の

日本においてコミュニケーション教育

が切実に必要とされている、というこ

とが強調されていた。従来の「以心伝

心」的コミュニケーションが機能しな

くなっている日本社会においては、価

値感や背景の異なる人同士が「社会

的・文化的」文脈を擦り合わせる必要

がある。しかし、どのようにして多様

な個人的文脈を擦り合わせるのらう

か。個人的なイメージを互いに共有

し合うという演劇的な活動が、大変意

味を持つことになる。基調講演のほか、

本学会の目指すものというテーマで、

パネルディスカッションも行われた。

言語、表現形式を問わず、言語の持つ

表現性に関心を持つ人々が自由に意見

を交換し合う場、そしてお互いにサポ

ート、刺激し合う場を提供することに

本学会の存在意義がある、という結論

に達した。「平和」がテーマの、英語

を使用したワークショップは、参加者

がグループに分かれてタスクをしたた

めか、参加者同士に連帯感が生まれ、

その後、大変和気藹々とした雰囲気

で大会が進行できた。大会終了後にも数

多くの方から「大変居心地のいい、い

い意味で学会らしくない学会」という

コメントが寄せられている。

二日目には学会会長、コディ・ポ

ールトン氏による英語の基調講演が行

われた。彼自身の日本語教育歴をユー

モアを交えて披露し、話し言葉習得の

ためにいかに演劇が役立つかについ

て、専門である日本演劇を歴史的に概

観しながら、熱く語った。

第二回大会はカナダ、ビクトリア大

学で二〇〇九年二月中旬に予定されて

いるが、小さい規模の活動も行ってい

きたいと思っている。学会員が面白い

企画を理事会に提出できるような

‘Come join the cast!’(仲間に入っ

て!)をモットーに、自由で民主的な

学会でありたいと願っている。

(ビクトリア大学・野呂博子)